

CDP2014 優秀企業

サントリー食品インターナショナル株式会社



良質な水と生きる～自然との共生



サントリー食品インターナショナル株式会社専務取締役 肥塚眞一郎氏

この度はCDLI、CDPIの双方におきまして大変高いご評価を頂きました。当社は昨年東京証券取引所に上場したばかりで、今回初めての参加で思いがけない評価を頂き一層の努力をと改めて気を引き締めております。当社をはじめとするサントリーグループと言うのは正に、自然環境は最も重要な経営資源であり、これを守り育てる事が企業に課せられた大きな責務であるとの信念に基づき、「人と自然と響き合う」と言う企業理念を掲げて活動をしております。特に当社の扱う主たる商品は

清涼飲料水ですので、飲料全てが良質な水の恵みを受け、グループ全体でも「水と生きる」と言うコーポレートメッセージを掲げ、あらゆる命の源泉である水、あるいは自然との共生を目指して様々な活動に取り組んでいます。

代表的な例としましては、2003年に開始した『天然水の森の活動』があります。これは水源涵養林として高い機能を持つ森、豊かな生物多様性を持つ森を育むと言う活動で、現在全国で17か所、7500ヘクタールの規模になりました。2020年までには国内の工場で使用する地下水量の2倍の水を涵養しようと言う目標を掲げ、1万2千ヘクタールに拡大する計画で、活動を進めています。この天然水の森では、多くの専門家の皆様のご協力を得て、科学的な根拠に基づき実効性のある活動を進めております。社内専属のスタッフは、元々その仕事で入った訳ではありませんが、いつの間にか森林保護のエキスパートとして一年中森に入っており、社内でも活動を強めています。又水と生きると言う価値観は一部の人間だけではなく、広く共有するため本年から3年をかけ

て全社員が天然水の森で枝打ちや植樹、下草刈りなどの植林活動に参加する予定となっております。既に多くの社員が参加しております。

一方環境負荷低減と言う観点では、サントリーグループ全体での水の使用量、CO2排出量を2050年迄に半減すると言う新たな目標を掲げてスタートしております。この目標の一環として当社では、日本及び欧州のオランダジーナシエイプスグループにて2020年迄に2007年対比で水使用量を42%削減し、又CO2排出量を25%削減しようと言う独自の『2020年目標』を設定して取り組んでおります。例えばペットボトルの軽量化、リペットボトルの実用化、あるいは工場における節水水の循環利用の拡大、モーターシフトを活用した環境に配慮した効率的な製品輸送、又自動販売機の消費電力国内最小を目指して、様々な活動で目標を達成して行きたいと考えています。

今回CDPにおいて高評価を頂きましたことを更なる契機として、国内のみならず海外の各グループ会社も含め、環境負荷削減活動を強力に推し進めて参ります。